

秋の土づくり肥料の施用や稲ワラすき込みで、 収量・品質の向上を！

新潟米の品質向上と異常気象下でも安定した品質、収量を確保するため、秋のうちに土づくり肥料の施用、稲ワラすき込み等をおこない、来年に備えましょう。

○新潟県内の土壌で特に不足してる成分は？

1. ケイ酸

稲はケイ酸を非常に好み、生育期間中に一番多く吸収されます。
近年の異常高温に対応するためにも、ケイ酸をしっかり補給することが重要です。

「ケイ酸」の効果

- ・ 倒伏軽減
- ・ 病害虫への抵抗力を向上させる。
- ・ 根張りが良くなり、根の活力が高まる。
- ・ 光合成を促進し、登熟歩合が向上する。
- ・ 玄米タンパク質含有率が低下し、食味が向上する。
- ・ 異常気象時の品質低下を軽減する。

2. 鉄

水田では、鉄が少なくなると土壌に硫化水素が発生し、根ぐされなどを引き起こしていわゆる「秋落ち」が生じる可能性があります。

生育後期になって徐々に生育が停滞し、登熟不良で玄米収量が著しく少なくなる現象。下葉の黄化、枯れ上がり、ごま葉枯病の発生などが特徴。

「鉄」の効果

- ・ 根ぐされの原因である硫化水素と結合し、無害化させる。
- ・ 根量および養分吸収量を増加させる。

○おすすめ土づくり肥料

肥料名	保証成分(%)						含有成分(%)	おすすめポイント
	りん酸	加里	アルカリ分	ケイ酸	苦土	マンガン	鉄	
越後の輝き ソイル米スター	1	7	23	30	2			ケイ酸が多く、低コストです。 軽量15kg袋で扱いやすい。
ソイルキーパーFe			35	13.5	1.5		19	鉄成分を多く含んでいます。
ソイルSIM	2		38	20	3.5	2.00	8	鉄・マンガンの補給もできます。

○ケイ酸補給のため、稲ワラを田んぼに戻しましょう！

稲ワラのすき込みは、「土づくり」効果が期待できますが、気温が低くなった晩秋や春先にすき込みをおこなうと、ワラの分解が不十分になり「ワキ」の発生が増加し、根ぐされや初期成育不良を起こす場合があります。

秋の稲ワラすき込みの利点・ポイント

- ・ 稲ワラにはケイ酸が含まれており、十分腐熟すれば「土づくり」効果が期待できる。
- ・ 秋の収穫後できるだけ早く(地温が低くならないうちに)すき込むことで、稲ワラを分解する土壤微生物が活発に活動し、稲ワラを十分に腐熟させることができる。
- ・ すき込む作土深は、トラクターの作業効率や土壤微生物への酸素供給、春先の乾燥促進などを考慮し、5～10cm程度の浅うちとし、遅くとも10月中旬までには完了させる。

○稲ワラ分解促進資材

資材名	規格	形状	10aあたり 施用量	特徴
ワラ分解キング	10kg	顆粒	10kg	2種類の分解菌の力で強力に分解します。
アグリ革命	2kg	細粒	2kg	酵素の働きで分解期間を短縮します。
アグリ革命アクア	100ml 500ml	液体	100ml (希釈して使用)	酵素の働きで分解期間を短縮します。液体タイプで刈後の雑草防除で使用するラウンドアップマックスロードとも混用してお使いいただけます。

☆上手な使い方☆

- ワラに直接かかるように散布してください。
- 雨の日の後など、ワラが湿った状態が効果的です。
- 散布後はできるだけ早く土壤にすき込んでください。

○土着微生物を活性化させるため

お礼肥を兼ねた鶏ふんの秋散布もおすすめてです！

資材名	規格	形状	10aあたり 施用量	特徴
エコポス442 (普通肥料)	15kg	ペレット	4～8袋	鶏ふん堆肥を中心に、様々な有機原料(乾燥菌体、ひまし油粕、米ぬか、皮粉など)が含まれています。
醗酵鶏ふん (特殊肥料)	15kg	粒 細粒 ペレット	7～10袋	窒素、リン酸、加里をバランスよく含み、土壤の生物性や物理性を改良します。

(肥料農薬部 肥料農薬推進課)